

# 2024年度研究会活動助成制度成果報告

## 歴史社会学研究会

社会学研究科D2,M2,先端総合学術研究科D1

### 【研究会の目的】

歴史社会学の方法論に関する議論及び歴史社会学的研究を行う諸研究を概観することで、歴史社会学の研究手法を検討する

### 【今年度のテーマ】

- 1, 各会員の研究を踏まえた実践的な議論
- 2, 言説分析とは何か

### 【研究会の意義】

- ・歴史社会学の方法論の議論蓄積を概観
- ・議論を通じて各会員の研究発展に貢献
- ・学外の歴史社会学方法論に関する研究者コミュニティへの参画を円滑化

### 【研究成果】

学会報告1本、修士論文2本（内1本は研究科内で高評価をうけ総代に選出）

### 【言説分析とはなにか】

#### 1. 歴史学における位置付け

- ・言説：ある歴史的条件下、様々な陳述や記述に現れる規則性をもった表現形態≠社会の実態
  - ・歴史学における言説＝文化史（遅塚1996）
  - ・文化史のテキストの場合、テキストの外に事実はなく、テキスト自体が事実となる
- ※文化史：広義には日常的な庶民の思考や心性や行動について検討する心性史や民衆文化史、思想史を含めたもの

ただし、言説（文化史）は単体では、なぜその言説が登場したのかは説明できない→構造史や事件史と組み合わせる必要がある

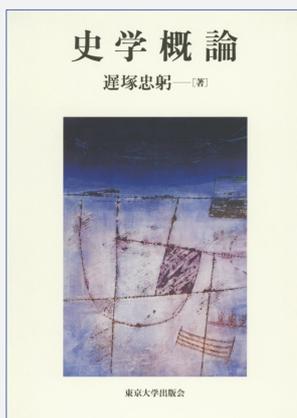
#### 2. 社会学における言説分析の課題

- ・インタビュー・雑談・文献などに現れる定型的な表現の登場や変化をみるために行う
  - ・似て異なるものとしての「内容分析」では、母集団全体を捉えようとする
- 限界：特定のイデオロギー表象批判、表象と現実のズレを示す、解答が決まった社会学の変数を外挿する傾向

⇒社会的変数の挿入は疑似客観性に陥る可能性

- ・疑似客観性を防ぐためには、言説と言説の関係を問うことを言説分析の目的とする

Ex)近代日本におけるオナニー有害論の変容を、性や性欲に関する意味付けの変化によって説明する



<https://www.utp.or.jp/book/b306078.html#>



<https://www.keisoshibo.co.jp/images/book/645230.jpg>

### 【今年度扱った主な文献】

- ・赤川学, 2024 『セクシュアリティの歴史社会学 新装版』勁草書房
- ・遅塚忠躬, 2010, 『史学概論』東京大学出版会.
- ・遅塚忠躬, 2006, 「言説分析と言語論的展開」『現代史研究』第42号
- ・広田照幸, 2001, 『教育言説の歴史社会学』名古屋大学出版会.
- ・White, Hayden著, 岩崎稔監訳・大澤俊朗ほか訳, 2017, 『メタヒストリー—十九世紀ヨーロッパにおける歴史的想像力』作品社.